

令和4年度 小・中学校教育課程研究協議会資料【体育／保健体育】

令和4年7月 岐阜県教育委員会

「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業改善 ～ICT（1人1台端末等）の有効な活用を通して～

1 情報活用能力の育成について

- ・小学校は令和元年度）から、中学校は昨年度から学習指導要領（平成29年告示）が全面実施となった。
- ・今回の学習指導要領改訂では、全ての教科等で、育成を目指す資質・能力が三つの柱（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）に再整理された。
- ・また、学習の基盤となる資質・能力として、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の3つが示され、教科等横断的な視点で育てていくことが求められている。
- ・情報活用能力の育成を図るためには、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを活用した学習活動の充実を図ることが重要である。

2 「学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編／保健体育編」とICT活用の関係

(1) 小学校（第3章 指導計画の作成と内容の取扱い）

(3) 第2の内容の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、各領域の特質に応じた学習活動を行うことができるように工夫すること。その際、情報機器の基本的な操作についても、内容に応じて取り扱うことを示したものである。



(2) 中学校（第3章 指導計画の作成と内容の取扱い）

(3) 第2の内容の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用して、各分野の特質に応じた学習活動を行うよう工夫すること。

例えば、体育分野においては、学習に必要な情報の収集やデータの管理・分析、課題の発見や解決方法の選択などにおけるICTの活用が考えられる。また、保健分野においては、健康情報の収集、健康課題の発見や解決方法の選択における情報通信ネットワーク等の活用などが考えられる。

なお、運動の実践では、補助的手段として活用するとともに、効果的なソフトやプログラムの活用を図るなど、活動そのものの低下を招かないよう留意することが大切である。

また、情報機器の使用と健康との関わりについて取り扱うことにも配慮することが大切である。



3 体育、保健体育における課題とICT端末の活用による児童生徒の期待できる姿

【平成20年改訂の学習指導要領の課題】

- 運動する子供とそうでない子供の二極化傾向
- 運動時間の減少に伴う体力の低下
- 健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分

【体育・保健体育の授業において三つの資質・能力を育成する中で、ICT端末を積極的、効果的に活用することで、以下のような更なる効果が期待できる】

知識及び技能の習得	思考力、判断力、表現力等の育成	学びに向かう力、人間性等の涵養
運動の理解 技能の段階的な習得	自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫・改善	仲間との教え合いの充実 自己の変容の確認

【その結果、以下のような児童生徒の姿が期待できる】

- 苦手だった運動ができるようになり、運動が好きになる。
- 運動することへの意欲が高まり、積極的に運動するようになる。
- 自己の健康課題に主体的に取り組むようになる。

4 体育及び保健体育で育成を目指す資質・能力と1人1台のICT端末の活用

(1) 体育、保健体育で育成を目指す資質・能力

【小学校】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

【中学校】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

(2) 体育や保健の見方・考え方

① 「体育の見方・考え方」

- ・生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」

② 「保健の見方・考え方」

- ・疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること」

(3) 資質・能力を育むためのICT端末の活用

- ・学習指導要領に基づき、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するため、子供や学校等の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが重要である。



出典：文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会「教育課程部会（第97回）配付資料」

5 授業改善の視点

(1) 導入

- △生徒の実態と、教師のねらいがずれている。
- △課題解決のための見通しをもたせていない。

<改善のポイント>

- ① 「やってみよう!!」「できるようになりたい!!」と憧れを抱くような示範。
- ② 生徒の実態を丁寧に把握し、終末の生徒の姿を具体的に描いて課題提示を行う。
- ③ 課題解決のための動きのポイント、練習方法などを児童生徒と共有する。

(2) 展開

- △追求の視点がなく、「見方・考え方」を働かせずに、ひたすら練習を繰り返すだけ。
- △仲間からのアドバイスや励ましの声がなく、集団で学習する良さが生かされていない。

<改善のポイント>

- ① 課題解決に向けた手がかりや追求の視点により、自分の動きを修正・強化する。
- ② 追求ができる適切な場の設定・準備。
- ③ お互いの視点に基づくアドバイスによって、自己の動きの変化に気付いたり、新たな課題を発見したりして、共に高め合う活動を設定する。

(3) 終末

- △本時の生徒の姿に対して、具体的な価値付けがない。
- △自ら立てた課題に対して振り返りをしない。

<改善のポイント>

- ① どんな練習の場を選んでいたか仲間とどんな関わり合いをしていたか動きが高まった根拠を価値付ける。
- ② 動きの高まりを、根拠をもって語らせる。

6 ICT端末の効果的な活用事例について

導入

展開

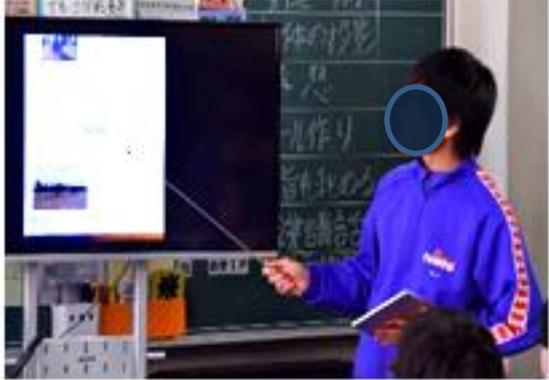
終末

育成を目指す 資質・能力	ICT活用の場面		期待できる効果
<p>知識</p> <p>学びに向かう力</p>	<p>児童生徒の学習 に対する興味・関心 を高める場面</p> <p>課題解決に向け た見通しをもち、 解決方法を検討 する場面</p>	<p>◎各領域における「運動の特性や成り立ち」や「技術（技）の名称や行い方」などについて、映像等を活用して学習することにより、知識や技能などに関する理解が一層深まることが期待できる。</p> <p>◎上級者等の模範となる動きを映像等で確認することにより、これから学習する内容に対する興味・関心を高めることが期待できる。</p> <p>◎提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、自己やチームの課題や出来映えから、課題に応じた練習方法を主体的に選ぶことにより、学習に積極的に取り組もうとする姿を生み出すことが期待できる。</p>	  <p>個別最適な学び</p>

導入

展開

終末

育成を目指す 資質・能力	ICT活用の場面	期待できる効果	
技能	模範となる動きを画像で確かめ、技能のさらなる習得に生かす場面	<p>◎教師による示範がなくても、模範となる動きのポイント等を画像資料として示すことは、一連の動きを繰り返し見たり、動きの局面を静止して確かめたりすることができるため、学習への効果が期待できる。</p>	 <p>個別最適な学び</p>
学びに向かう力	動画視聴による課題発見、課題解決の場面	<p>◎傷害の防止の単元において、地震発生時のビデオ教材などを視聴し、家屋の倒壊、家具の落下、転倒などの危険や津波、土砂崩れ、地割れ、火災などの二次災害などについて視覚的に捉え実感をもたせることにより、自然災害による傷害を防止するための行動を工夫するなど主体的な取組が期待できる。</p>	 <p>個別最適な学び</p>

導入

展開

終末

育成を目指す 資質・能力	ICT活用の場面	期待できる効果	
<p>思考力 判断力 技能</p>	<p>児童生徒一人一人が、自分の動きを確かめ、課題を明確に把握する場面</p>	<p>◎自分の動きをデジタルカメラやタブレット型の学習者用コンピュータで撮影し再生することにより、その場で自分の動きが確認でき、技能面における自己の課題を見付けたり、課題解決の仕方を選んだりする際の資料となる。</p> <p>◎撮影と再生を繰り返すことにより、技能の向上の程度を具体的に捉えることが期待できる。</p> <p>◎器械運動や陸上競技などにおいては、動きの局面をスロー再生や静止画で繰り返し確認することで、自己の課題解決に取り組む方向性や課題解決に向けた進捗状況を確認することが期待できる。</p>	  <p>個別最適な学び</p>

導入

展開

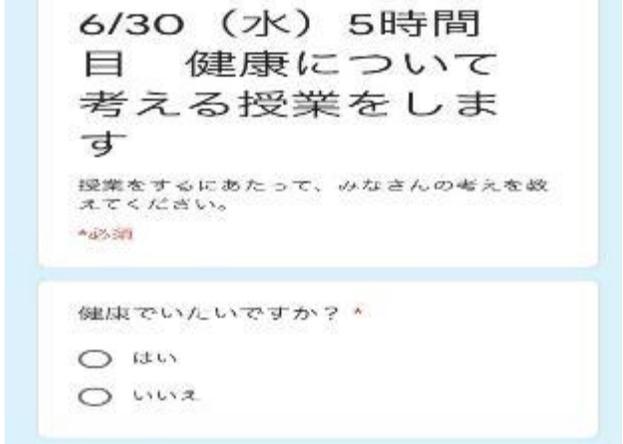
終末

育成を目指す 資質・能力	ICT活用の場面	期待できる効果	
<p>思考力 判断力 表現力</p>	<p>仲間の動きの 画像をもとにアド バイスをする場面</p>	<p>◎デジタルカメラやタブレット型の学習者用コンピュータによる撮影を行い、その場で画像等を示しながら動き等をアドバイスし合う。</p> <p>◎撮影した画像等を用いて、つまずきや動きのコツ、分かったことなどを、仲間同士で見合ったり教え合ったりする対話的な学びの充実が期待できる。</p>	 <p>協働的な学び</p>
<p>思考力 判断力 表現力</p>	<p>グループの動き が撮影された画像 をもとに、グループ での話合いを活性 化し、思考・判断・ 表現する場面</p>	<p>◎球技のゲームや武道の試合、ダンスの発表などを撮影すると、集団で活動した後、個の動きや仲間との連携等を画像等で振り返ることができる。</p> <p>◎仲間の動きを指摘し合ったり、新たな動き方などを話し合ったりするなど、自己の考えを表現するための資料とすることが期待できる。</p>	 <p>協働的な学び</p>

導入

展開

終末

育成を目指す 資質・能力	I C T活用の場面	期待できる効果	
<p>表 現 力 学びに向かう力</p>	<p>情報の収集や 表現をする場面</p>	<p>◎課題学習などの際、I C T端末を活用することにより情報の収集や管理を効率的に行うことができる。</p> <p>◎他者に伝える際のツールとしてプレゼンテーションソフトなどを活用することにより、より効果的な伝達が可能となり、生徒の主体的な活動が期待できる。</p>	 <p>個別最適な学び</p>
<p>思 考 力 判 断 力 表 現 力</p>	<p>アンケート機能を活用し、児童生徒の意見を効率的に可視化する。他者の多様な考えを共有し、思考・判断・表現する場面</p>	<p>◎学習者用コンピュータなどのアンケート機能を活用することで、友達の多様な考えを瞬時に確認できたり、個々の意見をすぐに集約し全員にフィードバックできたりすることで、活発な対話が促され、児童生徒が新たな考えを導き出したり、理由を考えたりすることを促すことが期待できる。</p>	 <p>6/30 (水) 5時間 目 健康について 考える授業をしま す</p> <p>授業をするにあたって、みなさんの考えを教えてください。</p> <p>*必須</p> <p>健康でいたいですか? *</p> <p><input type="radio"/> はい</p> <p><input type="radio"/> いいえ</p> <p>個別最適な学び</p>

導入

展開

終末

育成を目指す 資質・能力	ICT活用の場面	期待できる効果		
学びに向かう力	自分の活動量等のデータを客観的に評価する場面	<p>◎運動、食事、休養及び睡眠などの学習において、歩数や心拍数など運動のデータを早く正確に確認できるため、そのデータを活用した活発な対話が促されることから、自己の生活を振り返る際に効果的な活用が期待できる。</p>		個別最適な学び
知識 技能 思考力 判断力 表現力 学びに向かう力	画像の蓄積により、学習の成果を確認したり評価の資料としたりする場面	<p>◎学習中に記録した画像等を確認することを通して、教師は児童生徒一人一人の課題を確認し、次時の学習課題を設定するための資料とすることが期待できる。</p> <p>◎記録した画像を、時系列や学習課題ごとに整理し、児童生徒の学習の過程を振り返ることにより、指導改善や多角的な評価のための資料とすることが期待できる。</p> <p>◎児童生徒は、学習中に記録した画像等を確認することを通して、自分自身の学習改善につなぐ資料とすることが期待できる。</p>		個別最適な学び

7 指導と評価の一体化について

(1) 学習評価の目的等

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価することを示し、授業の改善と評価の改善を両輪として行っていくことの必要性が明示された。

- ・ 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。
- ・ 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

(2) カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

各学校における教育活動の多くは、学習指導要領等に従い児童生徒や地域の実態を踏まえて編成された教育課程の下、指導計画に基づく授業(学習指導)として展開される。各学校では、児童生徒の学習状況を評価し、その結果を児童生徒の学習や教師による指導の改善や学校全体としての教育課程の改善等に生かしており、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っている。このように、「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹に当たり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っている。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

指導と評価の一体化を図るためには、児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが大切である。すなわち、平成 29 年改訂学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。

(4) 学習評価の改善の基本的な方向性

学習指導要領改訂の趣旨を実現するためには、学習評価の在り方が極めて重要であり、すなわち、学習評価を真に意味のあるものとし、指導と評価の一体化を実現することがますます求められている。

このため、以下のように学習評価の改善の基本的な方向性が示された。

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

8 単元ごとの学習評価について

【手順】

①単元の目標を設定

- ・単元の目標は、学習指導要領本文を参考に設定することができる。
- ・学習指導要領本文に示された内容は、各領域において育成を目指す資質・能力であるため、学習指導要領の趣旨等に基づく指導上の目標と捉えることができる。
- ・単元の目標の語尾は、「～することができるようにする」と表記する。

②単元の目標から評価の視点を設定

- ・単元の目標から評価の視点を整理する際には、生徒の実態等を考慮しつつ、学習指導要領本文及び改善等通知の「観点の趣旨」を元に作成する。
- ・語尾は、「～できる」(技能)、「～している」(知識、思考・判断・表現)、「～しようとしている」(主体的に学習に取り組む態度の「健康安全」以外)と表記する。

③指導計画の立案

- ・生徒の実態を踏まえ、単元の目標の達成に向けた指導計画を作成する。
- ・指導する内容の順序や指導にかけることができる時間等を考慮し、無理のない計画に留意する。

④単元の評価規準を作成

- ・「内容のまとまりごとの評価規準」と指導計画における生徒の活動を考慮し、生徒の学びの姿としてより具体化した評価規準を作成する。
- ・各観点とも複数個に細分した評価規準を想定するが、順序性を示すものではないことに留意する。

⑤指導と評価の計画を作成

- ・単元計画の中で、いつ、何を、どのように見取るかの計画を立てる。
- ・指導計画の下に評価の計画を重ね合わせ、指導と評価の計画を作成する。
- ・1時間につき1～2程度の評価観点にするなど、評価をするに当たり無理のない計画を立てる。

⑥本時の展開を構想

- ・指導と評価の計画に沿って、いつ、何を、どのように見取るかを位置付ける。

